

筑波大学大学院

図書館情報メディア研究科博士前期課程

学位論文梗概集

平成21年度

筑波大学

はじめに

平成 21 年度筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程修了者の修士学位論文梗概集を刊行いたします。本梗概集には本研究科の多様で先端的な研究の成果が集結しております。研究科長として、このような成果をあげられた学生の皆様の修士論文完成に至るまでの努力を讃えるとともに、指導教員、副指導教員や査読者を始めとする論文作成に関わられた教員各位および学生の研究活動を支えられた支援室の職員の方々に感謝申し上げます。

図書館情報メディア研究科は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を進展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」を使命としてかかげ、「社会における知識・情報の共有や、その仕組みとしての図書館や情報ネットワーク」を対象にした、人文学、社会科学、理工学等の多様なアプローチからの総合的・複合的な教育・研究を行っております。そのような多面性を実現するために、情報メディアマネジメント分野、情報メディア社会分野、情報メディアシステム分野、情報メディア開発分野の四つの教育研究領域を設置し、また修士の学位も図書館情報学、情報学、学術をそろえております。ちなみに本年度における本研究科の修士学位取得者 40 名の内訳は、教育研究領域別では情報メディアマネジメント分野が 12 名、情報メディア社会分野が 9 名、情報メディアシステム分野が 9 名、情報メディア開発分野が 10 名、また学位の種類別では図書館情報学が 16 名、情報学が 22 名、学術が 2 名でした。

博士前期課程の修了者は、公的機関や企業等で図書館情報メディアに係る専門家として実務に携わるもの、将来この領域の先駆的な研究者になるべく博士後期課程に進学するものなどさまざまです。どのような職につかれようとも、修了者各位が、本研究科で学んだ事や修士論文を完成させるまでの研究生活の中で得た知見を活かし、知識情報社会のフロンティアとして活躍されることを期待します。

この修士学位論文梗概集は一論文当り 2 ページという分量を設定しております。研究領域によっては不十分ではあるかも知れませんが、学会等の講演予稿集程度の分量であり、研究内容の骨格を知るには十分と考えます。本研究科の教員・学生はもとより、関連する研究に興味を持たれている多方面の方々に本梗概集をご利用いただき、図書館情報メディア研究の発展に役立てていただければ幸いです。

2010 年 3 月

図書館情報メディア研究科長 中山伸一

目 次

《 修士 (図書館情報学) 》

石 立 裕 子	日本における「八景」について～景物の歴史的変遷を中心に～ …………… 1
木 村 雄 二	電子ジャーナルへのリモートアクセス環境構築とそのアクセスログ 分析 …………… 3
小 泉 真 理	インターネット普及後の企業内専門図書館の組織体、運営の変化 について …………… 5
佐 藤 翔	機関リポジトリコンテンツの利用数とアクセス元、アクセス方法、 コンテンツ属性の関係 …………… 7
菅 智	地域の参加型学習における生涯学習コーディネーターの役割 …………… 9
鈴木 円 花	『古今俳諧明治五百題』について …………… 11
中 島 大	法人化後の国立研究機関の研究実績の評価方法 —国立極地研究所の研究成果を例に— …………… 13
二 瓶 優	著作権法における方式主義の採用可能性 …………… 15
早 川 美 彩	道教護符に使用される用語の整理・『道法會元』を対象として …………… 17
日 詰 梨 恵	論文データベースにおける人文学の収録状況 —CiNii 収録率の実態調査— …………… 19
細 井 瞳	本の推薦システムにおけるカテゴリの有用性 …………… 21
皆 川 恵 理 子	図書館情報学における「コミュニケーション」に対する考察と提案 —情報伝達モデルと他領域のモデルを比較して— …………… 23
宮 原 柔 太 郎	小児救急医療における携帯電話を用いた情報支援 …………… 25
横 田 智 子	子どもの科学に対する興味関心の育成における図書館員の役割 —科学読み物の活用を焦点にして— …………… 27
間 部 志 保	異なる知識組織化体系における SKOS 適用の可能性に関する研究 …………… 29

《 修士 (情報学) 》

井 上 結 衣	テキストマイニングにおける意見文の構造解析手法 …………… 31
岡 田 仁 之	関連語の提示による日本語文章作成支援に関する研究 …………… 33
苺 米 志 帆 乃	栄養素等摂取バランスの分析による食生活支援システム …………… 35
響 田 真 治	多人数会話におけるグループ検出の研究 …………… 37
黒 羽 光 生	閲覧者の顔を取り込む参加型広告システム …………… 39
佐々木 琢 磨	メール配送系における多様な迷惑メール対策の統合管理手法 …………… 41

佐藤弘樹	知識共有コミュニティにおける参加者の役割と貢献度に着目した分析手法に関する研究 ……………43
瀬戸優貴	食事状況の認識に基づく料理推薦システム ……………45
高橋公海	Web ページを対象とした包含従属性発見支援手法とその評価 ……………47
只石正輝	ディスク上の大規模グラフデータを対象とした集合単位ナビゲーションの効率化 ……………49
田中るみ子	化学物質名の異表記同定手法に関する考察 ……………51
中島孝雄	幾何学的な量子アルゴリズム生成問題における距離の評価 ……………53
中西基文	操作学習支援のための複合現実感による情報表現 ……………55
深澤友貴	カバー演奏を含む音響信号ストリームからのリアルタイム楽曲同定システム ……………57
三原鉄也	マンガ制作過程の協業プロセスモデル化とそれに基づく制作支援 ……………59
山田弓乃	音声波信号に含まれる声道特性と声帯波特性の話者認識への有効性に関する研究 ……………61
横田亜蘭	デジタルマンガの構造表現を指向したメタデータとその作成支援ツールの開発 ……………63
紀キンライ	中国における漢方薬の特許保護について ……………65
孫外英	オブジェクト指向 FRBR を基礎としたマンガオントロジーの実現—マンガメタデータの基盤としてのオントロジー ……………67
李暢	中国の法人著作及び職務著作制度について ……………69
方香蘭	図書館情報学教育の現状と動向に関する調査研究 —中国、韓国の大学院と北米の Information School を対象として— ……………71
渋谷瑞穂	色彩情報およびその情報源の提示に関する研究 ……………73
《 修士 (学術) 》	
伊藤剛史	「寛永禁書目録」に関する一考察 ……………75
永野優希	灰谷健次郎文学にみられる教育観 ……………77